

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：みやざきSDGsプラットフォーム

活動地域：宮崎県

活動におけるテーマ

『～地域の繋がり、人の繋がりが創り出す豊かな宮崎の未来～』

活動団体および活動地域の紹介

みやざきSDGsプラットフォームとは



令和3年4月、**宮崎県内**における**SDGsの普及啓発及び連携・協働促進**を目的に、自治体・経済団体、大学等の広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める産学金労官の連携の場として設立した団体。

代表幹事：平野 亘也氏（宮崎県経営者協会会長）

幹事：宮崎日日新聞（発起人）、宮崎県、宮崎県男女共同参画機構、宮崎大学

事務局：事務局：NPO法人宮崎文化本舗 WEBサイト <https://www.miyazakisdgs.info/>

目標

- ひとりひとりが「**自分ごと**」としてそれぞれに出来ることに取り組む土壌を気づく
- SDGsを原動力とした**地方創生**や**人材育成**を推進
- **パートナーシップ**に基づいて連携して行動する環境を醸成

活動内容:

1. SDGsの理念、具体的取り組みに関する**普及・啓発**
2. SDGsに関する県内の取り組みの**登録・発信**
3. SDGsを推進する**人材の育成**
4. SDGsに関する**調査・分析**
5. SDGsに関する**相談対応**及び取り組みへの**協力・支援**
6. その他、SDGsの達成に向けた取り組み

構成員:

- ①**会員**：業界団体、自治体、マスコミ、NPO 法人、大学 等
- ②**活動登録メンバー**：企業、個人 等

会員数：**37**団体 活動登録メンバー：**61**団体

▼地元情報番組からの発信



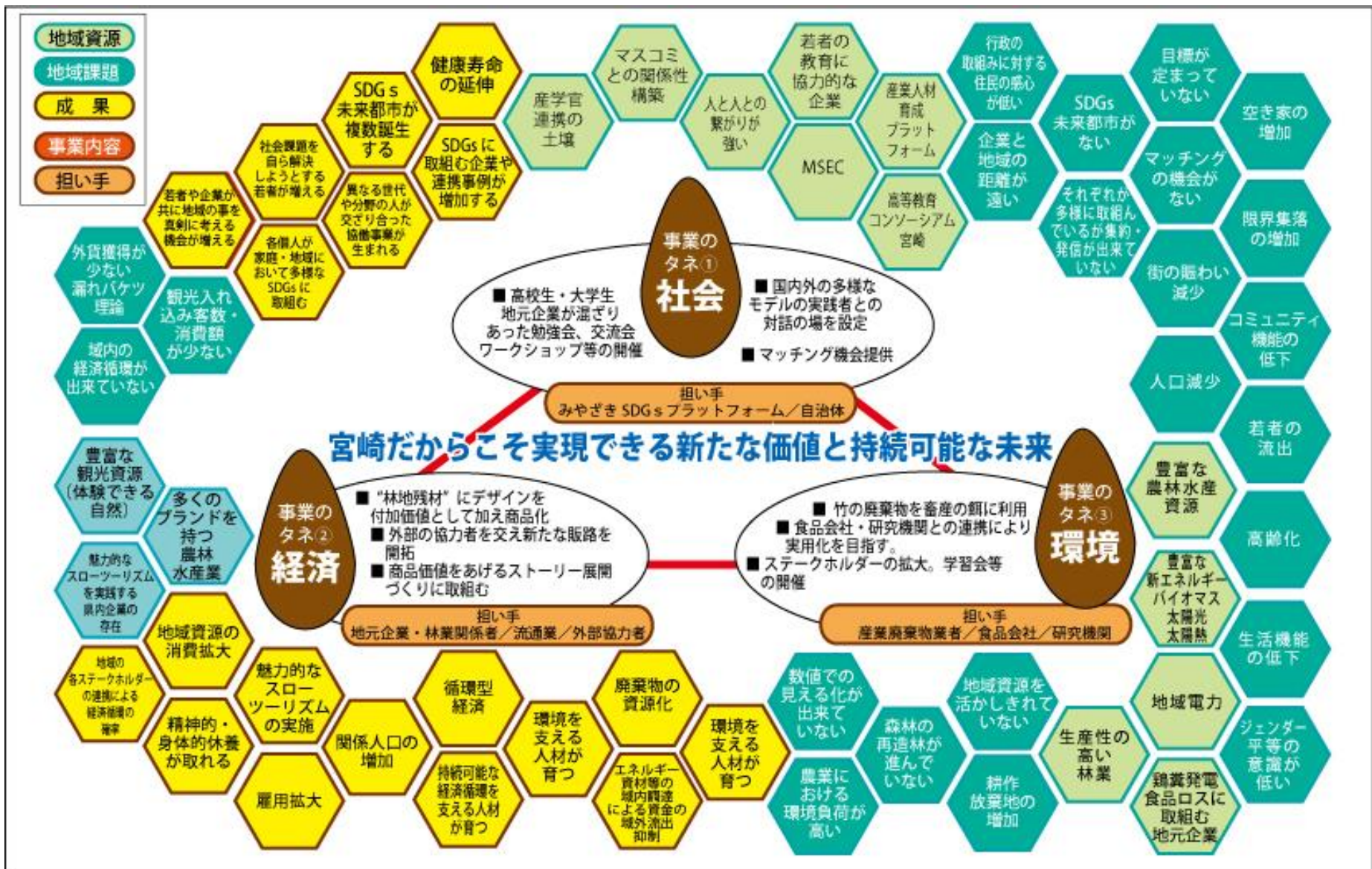
▼活動は宮崎県内全域



▼メンバー募集チラシ



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			全国キックオフ ミーティング					中間 報告会				全国 成果共有会
実施したこと	総会開催			分科会・学習会の開催（月1～2階程度・リモート含む）								
			幹事会					ワークライフバランスとジェンダー平等 フォーラム開催		山のダイゴミ展 開催		MIYAZAKI SDGS ACTION 開催
				例) 勉強会実施		分科会開催			ステークホルダー ミーティング		幹事会	マンダラ更新

地域プラットフォームづくり(普及啓発)

【活動内容】

- ・各会員からの周知（強化月間）
- ・事務局からの周知

様々な推進会やフォーラム・研修会に登壇し県内における取組の紹介や意見交換を実施

【成果】

- ・会員数：34→37団体 **(3増)**
- ・活動登録メンバー：47→61団体 **(14増)**



総会・勉強会・イベントの実施 ありたい未来についての意見交換会

【活動内容】

- 勉強会 令和4年11月15日(火)
内容：「ワークライフバランスとジェンダー平等フォーラム」開催 120名参加
登壇者：講師；渥美由喜氏

パネリスト：飯塚隆氏・加納ひろみ氏・宮崎市長清山知憲氏・税田 倫子氏・津曲慎哉氏・中川美香氏
ジェンダー・SDGsに関する理解が深まった＝約9割



- ステークホルダー・ミーティング

学習会&意見交換会

令和4年11月29日（火）

テーマ：「事業者が今こそ取り組む低炭素社会の実現」
講師：平田裕之氏（JACCA事務局長）
参加者：25名
今日から取り組めることを実践すると参加者の意識が向上

事業の具体化に向けた作業部会開催

【目的】

プラットフォームとして特に力を入れる分野や事業について協議し、作業部会のメンバーが中心となってその推進を行う

【メンバー構成】

- ①幹事(マスコミ、大学、NPO、経営者協会)
- ②手を挙げていただいた活動登録会員
(JC、中小起業家同友会、連合宮崎 等)
- ③事務局より声掛けした企業経営者

計:15名3部会

深めるテーマと実績：

MIYAZAKI SDGS ACTION

⇒高大生×企業未来構想ワークショップ3/25開催

ダイゴミ・プロジェクト

⇒林地残材の有効活用に向けての商品開発

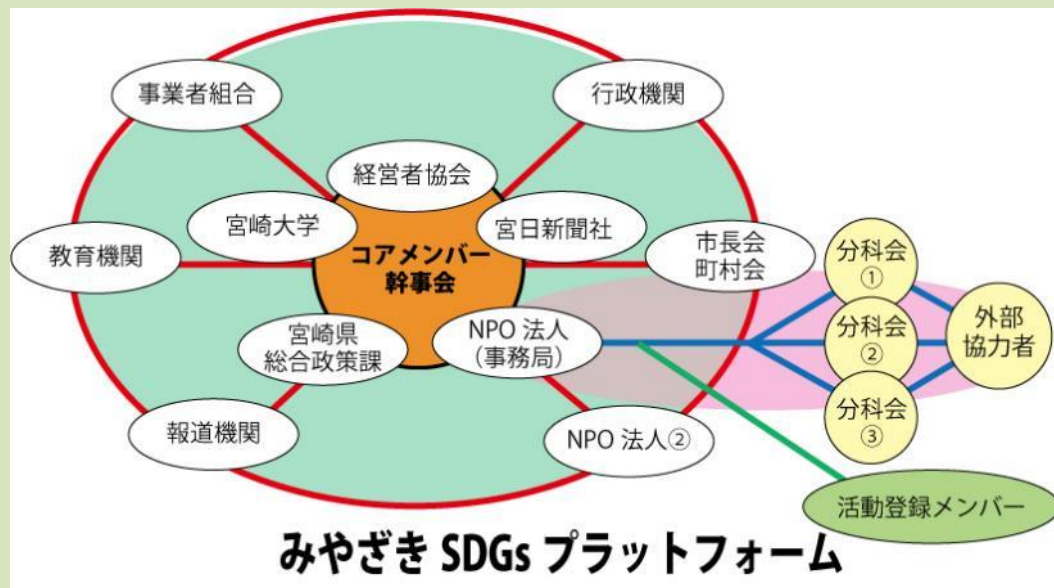
放置竹林活用プロジェクト

⇒竹の有効活用に関する研究

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

- 今年度の環境整備を経て、令和5年1月末時点で正会員37団体。活動登録メンバー61団体が加盟。それぞれのメンバーが独自でSDGsを推進している。
- プラットフォーム全体で取り組む事業として、普及啓発のイベント等を主催・共催。
- 分科会を3つ立ち上げ、それぞれ事業化を検討中。
 - ① 人材育成・ジェンダー部会
 - ② ダイゴミプロジェクト部会
 - ③ 放置竹林の活用プロジェクト



【地域プラットフォームの変化】

- 今年度、地域プラットフォームでは事業のタネをブラッシュアップするために活動登録メンバーを中心に分科会を開催。具体的な事業の実現のための議論を積み重ねた。
- 現実的なアウトプットの目標を設定できるよう、宮崎県内のステークホルダーだけでなく、外部（都市部）の企業に協力を依頼し、実現に向けての協議が行われた。
- 結果として当初予定していなかった動きとなり、令和5年2月に武蔵野美術大学と連携し都内でイベントを実施。
- 来年度の本格的な事業化に向けてのステップアップとなった。
- 全体的にSDGsへの理解が浸透**

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

プラットフォームが繋ぐ県内全体の企業・事業所等のネットワーク化と個別のプロジェクトの始動

・ワークライフ・バランスとジェンダー平等シンポジウム

令和4年11月15日（火）宮日ホールにて開催 参加者120名

事業所の代表・担当者に向けてのジェンダー平等の必要性、SDGs の理解について理解が深まったとアンケートでの9割近くが回答

・MIYAZAKI SDGs ACTION

令和5年1月21日（土）～3月25日（土）全4回 宮崎市内で開催

・1月21日（土）・2月4日（土）・2月25日（土）3月25日（土）

県内の高校大学生と事業者による地域の課題の共有とその解決策を考える機会を創出。

・再生可能エネルギー研修会 令和4年12月14日 62名参加（オンライン参加うち47名）

・山のダイゴミ展 ミヤザキ編

令和5年2月12日（土）武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパスにて開催 観覧者約520名 フォーラム参加者60名

事業化を目指す「山のダイゴミ」を材料とした商品の試作品展示と意見交換を行った。



- ・ 自己資金の確保 事業を運営するため、また事務局の経費をどう持続的に捻出するか？
- ・ 対応策 令和5年度より正会員からの会費の徴収及び、寄付の受け入れを実施で調整。
MIYAZAKI SDGs ACTION等個別の事業については、個別に企業からの協賛金を依頼。

活動における今後の展望

- 運営基盤の強化

設立以来、令和3～4年度に関しては、地域循環共生圏PF事業の支援があったため活動資金を確保することができたが、令和5年度以降は自走していかなければならない。そのため資金をどう調達するかが、令和4年度の大きな命題であった。基本的には会費の徴収と寄付を募っていくことで対応しようという計画ではあるが、極めて重要な案件となることが想定される。

- 事業のタネのブラッシュアップ

今年度3つの「事業のタネ」を設定し、事業の実現に向けての取組みを加速させたいと考えている。

- ① MIYAZAKI SDGs ACTION

4年目以降を継続させるための安定的な資金の確保と、参加しやすいデザイン

- ② 山のダイゴミプロジェクト

試作品のテスト、流通の仕組みづくりや販売戦略の策定・検証・強化

- ③ 放置竹林活用プロジェクト

試作品のテスト、有識者からのアドバイス等を得る